日本SPF豚協会だより
Report of JAPAN SPF Swine Association 2006.4 第23号

提◆言

利点を生かし日々の努力を実りあるものに

農事組合法人 しわひめスワイン組合長
有限責任中間法人 日本ＳＰＦ豚協会理事
石川　輝芳

現在、食料・農業・農村の基本計画が大きく見直されつつあり、また、品目横断的な経営安定対策が打ち出され、地域農業は大きな変化を余儀なくされようとしています。担い手の育成、休耕地の有効活用や農業所得の安定化など、明文化されてはありますが、そもそも作る気力の低下や休耕せざるをえない事情などがあるのではないでしょうか。生業とする以上、もちろん生産者の自己責任は重要ですが、農業生産基盤を整備する中で生産物の販売価格の安定化といった面でも、資金注入以外の国策もまた必要だと思われます。

同じく、養豚業においても取り巻く環境は年々厳しくなる一方です。糞尿処理や臭気対策に費やす労力を含めたコストは高く、さらに追い討ちをかけるかのように、複合的な疾病の蔓延、ＷＴＯ、ＦＴＡ、ＥＰＡでの農業交渉による先の見えない豚価などが懸念されます。生産現場では日々、施設の維持、疾病コントロールや衛生・防疫管理等、豚の健康管理に今まで以上に神経質にならざるを得ず、外的要因の変化に対応しながら、堅実にしかも継続的な農業運営の努力を要求されています。

私たちＳＰＦ豚認定を取得している農場は、疾病に対する基準が客観的に管理されていることにより、複合的に発症する疾病の浸潤を未然に防ぎ、また、万一場内において疾病による被害があっても甚大にならずにすむ可能性が高いことが利点といえます。

とはいえ、この認定制度、私にとっては大きなプレッシャーで、毎年認定更新の時期に新しい認定証が来るとホッと胸をなでおろします。認定を受けておられるほかの皆さんはいかがでしょう。

もちろん、ＳＰＦ豚農場でなくても、同等かそれ以上に豚が健康状態にある農場もあるでしょうが、認定制度として客観的に証明されていることは、農場における日々の豚の健康管理の指針として大きな利点だと思います。

また、もう一つの利点として、ＳＰＦ豚の食味があります。これも認定基準を土台とした日々の管理努力の賜物ではないでしょうか。

近年、ＳＰＦ豚は銘柄と等しい扱い、いわゆる販売のための差別化と解釈されることも多々あります。ＳＰＦ豚認定制度は、本来、我々の生産性向上のための管理システムですが、消費の場からも、安全・安心な生産システムとして、その食味が注目されるようになってきました。これは、生産のみならず消費サイドに立った販売努力も要求されつつある農場経営を考えなければならない現状において大変有利となるはずです。

私たち農家が日々愛情込めて守っているＳＰＦ豚が正しく流通され、正しく評価されるためには、生産者自らの努力もさることながら、生産から販売までの関係機関の人々との相互理解が不可欠です。ＢＳＥ問題を始めとして、何か起きればすぐ生産現場が槍玉に上がりますが、それはあくまで結果であり、原因はそれ以外にもあるのではないのかと思うのです。

昨年から本格始動した、法人格を取得した日本ＳＰＦ豚協会、必ずや国内の豚肉生産界のオピニオン・リーダーとなり得ると確信しています。我々生産者もＳＰＦ豚と協会のこれからに大いに期待し、日々の努力をぜひとも着実に実りあるものにしていこうではありませんか。

SPF種豚と認定農場の分布

（2006年3月末現在）

表1. 認定農場の分布

飼養規模(頭)	北海道	東北	関東	甲信越	東海近畿	中四国	九州	合計	種雌豚総頭数
99以下	2	0	9	2	0	6	3	22	1,689
100～299	8	10	31	5	1	3	12	70	13,315
300～599	2	8	9	2	1	9	7	38	16,240
600～999	2	9	4	1	0	2	3	21	16,428
1,000以上	0	4	4	0	0	1	8	17	22,698
計	14	31	57	10	2	21	33	168	70,370
肉豚肥育専門農場	0	1	1	1	0	0	8	11	
合　計	14	32	58	11	2	21	41	179	70,370
種雌豚総頭数	4,035	18,949	16,522	2,937	815	7,245	19,867	70,370	

肥育用素豚生産部門と肉豚肥育専門部門で別々に認定申請する農場が増加したため、今回より肉豚肥育専門農場分布数を別途集計した。

表2. 認定農場数および飼養母豚数の推移

年度 / 地域	2001年度		2002年度		2003年度		2004年度		2005年度	
	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	12	2,701	11	3,079	13	3,873	15	4,141※	14	4,035
東　北	29	20,908	27	17,951	29	18,628	30	18,170	31	18,949
関　東	53	12,786	54	14,168	59	15,321	59	16,682	57	16,522
甲信越	11	2,276	12	3,284	11	3,023	12	3,111	10	2,937
東海近畿	3	1,316	4	1,670	4	1,610	2	983	2	815
中四国	19	4,698	21	6,267	21	6,489	21	7,124	21	7,245
九　州	33	13,910	32	14,986	29	13,545	33	17,025	33	19,867
肉豚肥育専門農場									11	
全　国	160	58,595	161	61,405	166	62,489	172	67,236※	179	70,370

※集計ミスが判明したため、数値を訂正

平成18年3月末現在、ＳＰＦ豚認定農場は179（ＧＰ、ＧＧＰ農場18、肉豚肥育専門農場含む）、飼養母豚数は7万頭を超え、昨年度より戸数、母豚数とも増加した。わが国の飼養戸数が5%以上減少、飼養頭数も横ばいを示す中で、ＳＰＦ豚農場が戸数、飼養頭数ともに増加傾向にあることは特筆すべきである。規模別、地域別においては特に大きな変化はみられない。

全国の飼養母豚総数91.5万頭（平成17年8月現在）に占めるＳＰＦ豚の割合は約7.7%と、昨年に比べ0.3ポイント上昇した。

ＣＭ認定農場の生産成績

（2005年度）

表1　一貫経営

	件数	母豚数	農場回転率		農場飼料要求率		出荷頭数／母豚		Ａ薬品費／肉豚		生産指数
	130		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00	100.00
A	32	391	1.89	16.70	3.03	26.22	22.13	41.44	55.64	36.11	120.44
B	32	310	1.66	14.66	3.28	24.28	20.37	38.16	117.89	31.76	108.85
C	32	437	1.66	14.65	3.30	24.13	20.38	38.19	233.02	23.70	100.66
D	34	336	1.57	13.89	3.34	23.83	18.82	35.27	365.88	14.41	87.39
最高成績		2,338	2.40	21.20	2.80	28.03	25.90	48.52	1.43	39.90	134.16
最低成績		32	0.88	7.73	4.58	14.08	13.46	25.21	516.00	3.92	80.23
平均値		367	1.70	14.98	3.24	24.62	20.44	38.28	191.79	26.59	104.46

生産指数にもとづいて４ランク（Ａ～Ｄ）に分け、それぞれのグループごとに平均値を算出した。

表2　肥育用素豚生産専門農場

	件数	母豚数	分娩回数／年		離乳頭数／母豚		出荷子豚数／母豚		Ａ薬品費／子豚		生産指数
	16		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	282	20.00	100.00
最高成績		1,500	2.46	21.39	25.07	22.26	23.15	43.21	24.65	38.23	123.16
最低成績		130	1.86	16.17	15.40	13.63	12.20	22.71	289	19.50	88.79
平均値		677	2.28	19.80	21.57	19.16	20.49	37.62	148.55	29.46	106.67

表3. 肉豚肥育専門農場

	件数	出荷数	農場飼料要求率		出荷率		Ａ薬品費／肉豚		生産指数
	9		実績	指数	実績	指数	実績	指数	
基準値			3.30	55.00	97.50	25.00	125	20.00	100.00
最高成績		15,663	2.77	63.83	99.30	43.40	9	38.56	145.79
最低成績		1,584	3.88	45.28	94.00	-10.00	320	-11.20	68.23
平均値		7,206	3.40	53.27	97.16	24.26	136.05	18.24	95.32

表4. 肉豚1頭当たりＡ薬品費使用（一貫経営）

薬品費／肉豚	農場数	平均金額
100円未満	44	￥50.37
100円～199円	35	￥145.48
200円～299円	20	￥251.15
300円～399円	15	￥355.63
400円～499円	15	￥442.47
500円～599円	1	￥516.00
農場数	130	
最　高		￥1.43
最　低		￥516.00
上位25％の平均		￥40.49

連載 抗菌性物質の基礎知識②

抗菌性物質製剤の使用時の注意事項

農林水産省動物医薬品検査所 浅井 鉄夫

抗生物質やサルファ剤およびワクチンなど動物用医薬品（動物薬）には、対象動物、用法および用量、使用禁止期間など使用時に守らなければならない基準が定められています。これらは、動物薬による副作用を引き起こさないで有効に使用するためと肉や内臓などの食用にする部分に動物薬が残留するのを防止するために設定されています。また、動物用抗菌剤については、薬剤耐性菌の発現を防止するため、設定されている項目（「長期間使用しない」「薬剤感受性を確認する」など）もあります。農場で発生する病気の原因菌が薬剤耐性を獲得すると、抗菌剤による治療効果が低下するため、生産性の低下、治療費の無駄や増加につながります。動物薬を使用する時には、薬品の説明書（添付文書）に記載されている内容をよく読んで適正に使用する必要があります。

また、動物薬の流通および使用について薬事法に基づく規制が取られています。動物用抗菌剤は、全て「要指示医薬品」となっています。そのため、抗菌剤を入手するには、獣医師の診察を受けて、獣医師の発行する処方せんや指示書を提示して販売店（動物用医薬品販売業者）から購入しなければなりません（「要指示医薬品制度」）。また、使用に当たっては、薬品の添付文書や獣医師の発行する指示書に記載されている休薬期間を厳守しなければなりません（「使用規制制度」）。また、使用規制対象医薬品については、指示書の保管とその使用記録を帳簿に記載するよう努めなければなりません。要指示医薬品制度及び使用規制の違反には，法律で罰則が定められています。ちなみに、これに違反した場合は3年以下の懲役か300万円以下の罰金，またはその両方とされています。

さまざまな病原体の国内への侵入にともなって、養豚場で発生する呼吸器病や消化器病は、ウイルスなどとの混合感染を引き起こしている場合も多く見られます。混合感染の場合、移動、群編成および密飼いなどの飼育ストレスや暑熱、寒冷あるいは温度差などの環境要素も発病に関係してきます。そのため、飼養管理（洗浄や消毒状況、飼育密度やピッグフローなど）の見直しや施設改修（豚舎のオールイン・オールアウト化やマルチサイト化など）を含めた総合的な衛生対策が必要となります。農場への新たな病原体の侵入防止を基本とするＳＰＦ管理を維持して、疾病の発生を予防するとともに、病気の治療を難しくしないよう心がけてください。

殺菌性抗菌剤と静菌性抗菌剤

項目	殺菌性抗菌剤	静菌性抗菌剤
豚で使用される抗菌剤の系統と成分	•ペニシリン系：アスポキシリン、アモキシシリン、アンピシリン、ベンジルペニシリン、メシリナム •セフェム系：セフチオフル •アミノグリコシド系：カナマイシン、ゲンタマイシン、ストレプトマイシン、フラジオマイシンなど •キノロン系：オキソリン酸、 •ニューキノロン系：エンロフロキサシン、ジフロキサシン、ダノフロキサシン、ノルフロキサシン	•テトラサイクリン系：オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン、テトラサイクリン、ドキシサイクリン •マクロライド系：エリスロマイシン、酒石酸酢酸イソ吉草酸タイロシン、ジョサマイシン、スピラマイシン、タイロシン、チルミコシン、ミロサマイシンなど •リンコマイシン系：リンコマイシン •チアンフェニコール系：チアンフェニコール、フロルフェニコール
その他抗菌剤の成分	•コリスチン、ビコザマイシン、ナナフロシン、トリメトプリム、オルメトプリム	•バルネムリン

消費者との交流会で協会パンフレットを活用

福島県玉川村
㈱ユキザワ玉川農場
岡本　恵史

先日、「平成17年度国産食肉等消費拡大推進事業の交流会」に参加しました。大層な名前の会ですが、要は「地元食肉の地産地消」を進めるための交流会です。参加者は、県農水関係者3名（農産物安全グループ2、畜産振興グループ1）、消費者代表9名、県食肉関係者4名、食肉販売店5名、生産者代表4名（養豚2、肉牛2）の計25名、内容は、①食肉に係る表示問題と県畜産情勢についての小講演、②生産から消費までの出席者による意見交換会（交流会）でした。

意見交換会の際、ＳＰＦ豚についての解説を、と指名を受け、できたばかりの日本ＳＰＦ豚協会パンフレット（改訂版）を配布し説明しました。日本一、イコール世界一安全・安心でおいしい豚肉が地元で生産されていること（㈱シムコのＳＰＦ豚を飼育、伊藤忠飼料㈱の肥育期休薬加熱飼料を使用、うち一部はＮＯＮ－ＧＭＯ飼料であることなど）を強調しました。ほとんどの消費者の方に正しくＳＰＦ豚を伝えることが

できたとは思いますが、生産農場としてはやや物足りなさが残りました。

というのは、消費者の声は「勉強になった」「どこで買えるのか」「食べてみたい」といった定番のもので、安全・安心へのこだわりや量産体制にはない長期飼育等の生産努力などのコストが理解してもらえなかった点にむなしさを感じたからです。

今後も地道に、生産農場として「顔の見える生産」にこだわり、30代から40代の財布のひもを握る消費者層に「安全・安心、おいしい肉にはお金がかかっているから値段も高い。しかし、子どもたちの健全な発育に役立ち、インスタント食品にはない本物の味が味覚を養い、後世まで引き継ぐ食育につながる」ことを伝えるため、こうした機会を活用していきたいと思います。

「３Ｋ」を「３Ｔ」に

神奈川県横浜市　**渡邊　幸男**

養豚を始めて27年目、シムコのＳＰＦ豚に切り替えて早や8年目を迎えています。母豚100頭規模の一貫経営、平成10年に生産性の向上を図るため、それまでの飼養豚をオールアウトし、ＳＰＦ豚への変換を行いました。

オールアウト後、数ヶ月間の空舎期間をおき、すべての繁殖豚を一時期に導入し生産を開始し、6、7産終了後にオールアウトしました。3年前に再び全繁殖豚を導入し、生産が軌道に乗ってきたところです。

オールアウト前後の期間は豚舎の消毒、そして豚房、設備のリフォームに当てました。まず、休息豚房、そして分娩、子豚、育成、肥育舎の順で空き状態になるので、それにしたがってリフォームを完了させていきます。すべての豚舎、豚房が築27年ですので修繕箇所もかなりありますが、空き豚舎内ですから作業は快適といっても過言ではありません。その結果、生産を開始してからの修繕作業はほとんどなく、余暇の時間も持てます。「老いてもできる趣味」として5年前から始めた写真を楽しんでいます。

そして何といってもオールアウトすることの私にとっての一番の魅力は、家族で行く長期間にわたる海外への旅（あえて旅行とはいわず、シンプルな旅、にこだわっています）です。「３Ｋ」の代表といわれ、休暇もとりにくいのが畜産業ですが、私には「３Ｔ」（たまには、旅、楽しむ）です。

私には3人の愛娘がいます。長女が今年で26歳になり、そろそろ「後を継いでくれる人」を心配しなければならない時期になりました。といっても、豚舎から数百

メートルのところに市営地下鉄の駅が1年後に開設されるので、養豚業はそれと入れ替えに幕を引く予定です。その後は、直売方式の果樹園（梨、葡萄）に切り替えていく予定です。

そんなわけですので、我と思わん方がいたらぜひ声をかけてください。もちろんどなたかご紹介いただければ、これまた幸いに存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

●協会からのお知らせ●

●代議員、役員の交代

組織内人事異動に伴い、九州地区代議員の田中正美氏（㈱九州ノーサンファーム代表取締役）に代わり、西原　登氏が就任されました。また、ホクレンピラミッド選出代議員・理事が高橋俊幸氏から吉田英雄氏に交代いたしました。

●協会パンフレット差し上げます

今号の「会員・読者のページ」に㈱ユキザワ玉川農場の岡本場長が原稿をお寄せ下さいましたが、消費者などとの交流会で協会パンフレット改訂版を資料として配付、ＳＰＦ豚への理解を深めてもらうために役立ていただけたようです。

他の方々にも、ぜひこうした機会にご利用いただければと思います。協会事務局まで、お問い合わせ下さい。

●ＳＰＦポーク販促リーフレットを作成

ＳＰＦポークを消費者にもっとよく知ってもらい、販売促進に役立てようということで、小売店などの店頭向けの販促用リーフレット（A6判、見開き4ページ）を制作いたしました。

無料で配付しますので、会員の皆さんもぜひ、ご自分のＳＰＦポークのＰＲにお役立てください。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

●地域別の研修会を3か所で予定しています

会員の皆さんにはすでにご案内をお送りしてありますが、18年度の事業で、農場現場担当者を対象に、生産性向上と疾病対策を柱とした地域ごとの研修会（勉強会）を開催することとになりました。5月までに関東ブロック、続いて10月頃東北ブロックで、さらに来年1～3月までに九州地区での開催を計画しております。

詳細が決まりましたら改めて協会だより等でご案内いたしますが、できるだけ多くの会員の方にご出席いただけるよう、参加しやすい形での開催を準備したいと思いますので、ご意見・ご要望等ありましたら、ぜひ、協会事務局までご連絡下さい。

●総会を６月に開催します

今年度の協会総会は6月15日、東京都千代田区の「ＫＫＲホテル東京」にて開催の予定です。代議員の皆様には別途ご案内をお送りいたします。ご多忙中恐れ入りますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

●協会ホームページの充実にご協力を

協会ホームページの充実を図るため、会員の皆さんの農場の写真（豚舎のある風景）の募集、認定農場プロフィール情報の掲載や農場ホームページとのリンクをお願いしております。ぜひ、ご協力下さい。詳しくは各ピラミッド担当者へお問い合わせ下さい。

●ＳＰＦ豚研究会から●

●研究会を5月29日に開催

第16回日本ＳＰＦ豚研究会が次の通り開催されます。詳細は後日会員の皆さんには研究会事務局よりご案内いたします。また、関連雑誌にも開催案内を掲載の予定ですのでご参照下さい。懇親会も開催されることになっておりますので皆さんふるってご参加下さい。

日　　時：平成18年5月29日（月）午後
場　　所：東京大学・山上会館　大会議室
内　　容：４題ほどの講演を予定

研究会終了後、懇親会を行う予定です。

＊研究会会員に限らずどなたでもご参加いただけますが、非会員の方は当日会員登録もしくは参加費を受付でお支払い下さい。（年会費・参加費とも2,000円）。詳細は**日本ＳＰＦ豚研究会事務局**（伊藤忠飼料㈱研究所内）までお問い合わせ下さい。

TEL：０２８７－６４－３６５２
FAX：０２８７－６３－８３８４
e-mail：kobyashi.kaz@itochu-f.co.jp

かんたん、おししい　いのこ家林シェフおすすめ、ＳＰＦポークレシピ

やわらか豚角煮の桜蒸し

レシピ提供：いのこ家総料理長・林　勝

ＳＰＦ豚肉専門店「いのこ家」の林シェフおすすめレシピ。今回は桜を使った春満開のメニュー。時間と手間がかかりますが、ワンランク上の上品でおしゃれな１品です。

材料（4人前）

ＳＰＦ豚バラブロック肉　40g
道明寺（もち米を砕いたもの）　160g
桜の葉　4枚
かつおだし　適量
食紅　適量
桜の花びら　適量
わさび　適量
Ａ＜角煮の味付け＞計量はレンゲで
　水35杯、濃口しょうゆ4杯、酒5杯、砂糖7杯
Ｂ＜銀あん＞
　かつおだし90cc、塩少々、薄口しょうゆ2滴、水溶き片栗粉適量

つくり方

① 豚肉を3センチ角に切り、米のとぎ汁で45分間煮ます。この間にＡを合わせておきます。
② やわらかく煮上がった①を10分間水にさらし、一度沸騰させたＡに入れ、45分煮ます。
③ かつおだしに食紅を桜色になるくらい入れ、そこに道明寺を入れてやわらかくなるまでもどします。ざるにあげて水気を切っておきます。
④ ラップの上に③を乗せ真ん中に角煮を入れて包み、そのまま10分間蒸します。この間にＢを合わせて銀あんをつくっておきます。
⑤ 蒸し上がった④を桜の葉ではさみ、器に盛ります。
⑥ 銀あんをかけて、わさびと桜の花びらを添えてでき上がりです。

【林シェフのひとこと】
桜の葉や花びらは塩漬けもありますが、お花見の時期、花びらと葉っぱを持ち帰り使ってみると、春の香りとＳＰＦ豚ポークのやわらかさがマッチして風情が感じられます。今年の春は桜蒸しに挑戦してみてはいかがですか。

●認定情報●

●平成18年度認定農場

[3月認定]（有効期間：平成18年3月3日から19年3月31日まで）

北海道・ＪＡ全農種豚開発センター、**秋田県**・㈲十和田湖高原ファーム、**宮城県**・サンエス丸森農場、**茨城県**・㈲中村畜産、**千葉県**・飯田武雄養豚場、石毛章俊養豚場、石上博養豚場、平野英夫ＳＰＦ豚農場、鈴木良雄養豚場、飯田文雄養豚場、㈲ピギージョイ、㈱シムコ館山事業所、㈲伊藤養豚飯岡農場、㈲鏑木ピッグファーム、㈲ブライトピック千葉東庄農場、**長野県**・(農) エスピーエフこがねや第二農場、全農長野ＳＰＦ繁殖センター、ＪＡ大北白馬アルプス農場、**富山県**・㈱シムコ八尾育種改良センター、**島根県**・奥出雲ファーム㈲、**山口県**・日本ハイポー㈱山口農場、**愛媛県**・松田養豚、ＪＡえひめアイッパクス㈱天貢農場、**熊本県**・全農畜産サービス㈱西日本原種豚場、新古閑養豚農事組合法人、㈲七城ＳＰＦファーム、㈲ピッグファーム陳、㈲やまとんファーム、天草梅肉ポーク㈱、**宮崎県**・宮崎高原ファーム㈱、**鹿児島県**・そお畜産㈱岩崎農場、そお畜産㈱志布志子豚供給センター、そお畜産㈱松山子豚育成センター、鹿児島いずみ畜産㈱出水農場、鹿児島いずみ畜産㈱阿久根農場

（以上35農場）

※次回認定委員会は平成18年6月9日（金）の予定

SPFのひと

㈲サクセス森

高瀬幸巳さん
小林久修さん
高瀬勝久さん

●北海道森町

トリオで実現、ＳＰＦ養豚

道南の噴火湾に面し、駒ケ岳の麓に位置する森町。既存の養豚地帯から離れた地区で、若い３人が、心機一転、母豚350頭規模のＳＰＦ養豚を実現。これが、平成11年。平成13年9月には肉豚を初出荷。立上げの苦労は多大であったが、その苦労を撥ね退け高成績を実現し、２年連続でＰＩＣＳ肥育部門全国１位（注）を獲得！その後押しとなったのは、３人の強い絆と奥様方の協力だった。

そんな農場サクセス森の“ひと”を紹介したい。

休日の過ごし方と奥様から見た夫

高瀬幸巳社長

高瀬代表の休日は？

「夏は･･･米作りですね（汗）。忙しいんです」

―妻からみた夫―

「物静かな？妻と子供よりも、豚を愛している夫です」

小林専務の休日は？

「パチンコ、スキー、そして除雪です」

―妻からみた夫―

「良夫賢父！最高の人です。でも、パチンコと車の運転では人が変わるんですよね」

小林久修専務

高瀬専務の休日は？

「最近は、日曜大工で汗を流しています！」

―妻からみた夫―

「一見、おとなしく見える人ですが、キレのあるツッコミで面白い人なんですよ」

高瀬勝久専務

仕事に対する姿勢

養豚の仕事で大切にしている事は何ですか？

高瀬社長「基本に忠実！日々努力！」。目に見えない菌と戦うにはコレです！

小林専務「発情チェックが命です！」。パチスロのリーチ目を見逃しても、発情は見逃さない！

高瀬専務「あせらず、ゆっくり、こつこつと」。肥育豚が伸びやかに発育する秘訣です！

職場のみなさん

奥様方も、現場仕事を担っている。高瀬社長の奥様は分娩部長として活躍中。両専務の奥様方も家事、育児が忙しいにもかかわらず、農場勤務にあたっている。

豚舎・豚房洗浄のエキスパートは青山さん。丁寧な仕事が、サクセス森の高位生産成績を下支えしている。

(有)サクセス森の夢は、さらに広がる

「もう１農場実現したい。」と高瀬代表。新たな夢は、実現の射程に入りつつある。

いつも笑いの絶えない職場環境に、豚たちも能力を充分に発揮して応えてくれるのだ。

（注）ＰＩＣＳ：全農の生産成績管理ソフト。毎年、農場成績を集計している。

（ホクレン生産振興部　岩瀬俊雄）

編集後記

今年の5月から食品の安全に関わる食品安全法、飼料安全法が改正され、いわゆるポジティブリスト制度が運用されるようになります。これは、食品中に残留基準が設定されていない農薬、動物薬などが残留する場合、その食品の流通を禁止する制度です。食品、飼料業界ではその対応のため、種々準備をしているところです。農場においては飼育の履歴や動物薬の使用記録、保管を求められるようになってきますが、ＳＰＦ豚認定農場ではすでに認定制度で一歩先んじています。ＳＰＦの有利性がここでも発揮されるでしょう。（哲）

日本ＳＰＦ豚協会認定農場産シール

このマークは
有限責任中間法人
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより
第23号　2006年4月1日発行（季刊）
発　行　有限責任中間法人 日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375　FAX.03-5835-5376
e-mail：j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人　赤池　洋二
編集人　林　　哲